

# まんがで知る 教師の学び 3

学校と社会の幸福論

前田康裕 著



## ◇ まえがき

私が小学校の教頭を務めていた平成28年4月、熊本地震が起きました。私の自宅がある熊本市は震度6強、被害が一番大きかった益城町では震度7の激しい揺れが襲ったのです。震災の衝撃はあまりにも大きく、家族や住居を奪われ、人生を根本から変えられた人たちも少なくありません。

学校は避難所となり、多くの被災者が寝泊まりをするようになりました。そこでは地域住民が結束し、全国からの多くの人々の支援を受け、運営がなされていきました。人々が力を合わせれば困難を乗り越えられるということを実感するとともに、人のやさしさを心からありがたいと感じたものです。

私が生まれ育った昭和30～40年代、子どもたちは「学校の先生の言うことをしっかり聞きなさい」と親に言われて育ちました。だから、家に帰って先生に叱られたことを親に話すと、「お前が悪い」とさらに激しく叱られました。教師にまだ権威があった時代のことです。

私が育った校区では、町内対抗小学生ソフトボール大会というものがあって、子どもたちは同じ町内のおじさんたちからその手ほどきを受けました。近所には、おっかないおばさんがいて、子どもたちが悪さをしようものなら「こらーっ！」と大声で怒鳴られたりもしました。放課後の遊び場であった神社では年齢の異なる子どもたちが一緒に遊び、けんかが起きても上級生が仲裁をしてくれました。

古き良き時代に帰りたいわけではありませんが、当時の子どもたちは、学校以外の場所でも「見えない教育」を受けてきたような気がします。

いつのまにかそのような時代は過ぎ去り、教師の権威はなくなり、家庭や地域の教育力は弱くなりました。そして、子どもの教育を一身に背負い込んだ学校は、ますます忙しくなってしまったのです。

文部科学省が平成29年3月に公示した新しい学習指導要領の理念は「よりよい学校教育を通じてよりよい社会を創る」というものです。そして、子どもたちの資質・能力を伸ばすことは、学校関係者とはもとより、家庭や地域の人々も含め、全ての大人に期待されている役割であると述べられています。しかし、どんなにすぐれた理念であっても、全ての大人に伝わらなくては実現できません。そこで、熊本地震から学んだことをベースにして「学校と社会の幸福論」というテーマで物語をつくり、多くの人達に理解してもらえるように漫画で表現したものが本書です。

各章の最後のページでは、「これからの人生と社会を考えるビジネス書」というコラムをもうけました。きっと、これからの自分の人生や創造するべき社会を考えるきっかけになると思います。

前田康裕

第1章

## 学校の多忙化

学校における働き方改革——9

コラム◎これからの人生と社会を考えるビジネス書 ①

リンダ・グラットン、アンドリュー・スコット

『LIFE SHIFT 100年時代の人生戦略』——28

第2章

## 教育課程と学習指導要領

社会に開かれた教育課程——29

コラム◎これからの人生と社会を考えるビジネス書 ②

P・F・ドラッカー『断絶の時代』——48

第3章

## 熊本地震

教職員のメンタルヘルス

49

コラム◎これからの人生と社会を考えるビジネス書

3

東京都総務局総合防災部防災管理課『東京防災』

68

第4章

## 避難所としての学校

自助・共助・公助

69

コラム◎これからの人生と社会を考えるビジネス書

4

アンジェラ・ダックワース『やり抜く力』

88

第5章

## 学習する組織とシステム思考

人生100年時代

89

第6章

# カリキュラム・マネジメント

コラム◎これからの人生と社会を考えるビジネス書 ⑤  
ピーター・M・センゲ『学習する組織』—— 108

—— ゆとり世代 —— 109

コラム◎これからの人生と社会を考えるビジネス書 ⑥

マイク・マクマナス『ソース』—— 128

第7章

# 学校と社会との連携

—— 業務改善と5S —— 129

コラム◎これからの人生と社会を考えるビジネス書 ⑦

檜山敦『超高齢社会2.0』—— 148

## まちづくりと共同体の再構築

——他責社会から感謝社会へ——

149

コラム◎これからの人生と社会を考えるビジネス書

⑧

山崎亮『コミュニティデザインの時代』

168



第1章

# 学校の多忙化

学校における働き方改革

刈九良市立  
かりきゅら

刈九良小学校  
かりきゅら

三月十五日(火)

それでは  
年度末の  
反省を行います

## 職員室

### 年度末反省アンケート結果

- 挨拶運動は6年生を中心にしてよくできていた。
- 音楽会の時の保護者の席が分かりにくかった。
- 図工室の道具使用が重なる 때가 あった。

このプリントは  
先生方の  
アンケートを  
集約したものです

改善案が  
あれば  
発言して  
ください

養護教諭※

ふゆかわ

冬川エミ(42)

このプリントを  
見て...

改善案と  
言われてもなあ...

特に改善案がなければ  
来年度も同じように  
計画しようと思います

図工室の  
道具を借りるのに  
重なることが  
あったので  
使用予約簿を  
作ってみては  
どうでしょうか

なるほど  
たしかに  
そうですね

改善しますね

教務主任 理科専科  
まいとしよしお

毎年良男(45)

他に  
ありませんか？

？

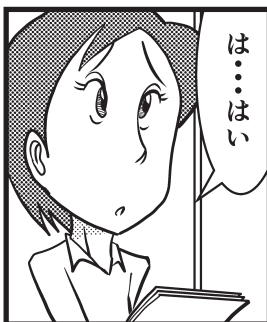
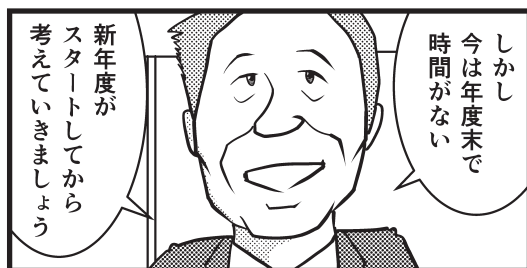
来年度  
本校はカリキュラム・マネジメントの  
研究指定を受けていたはずですが

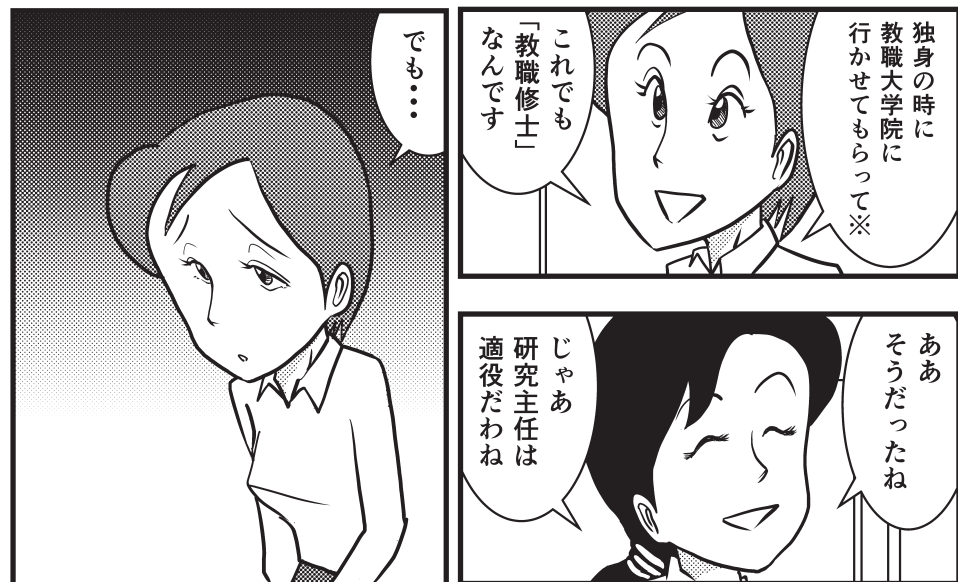
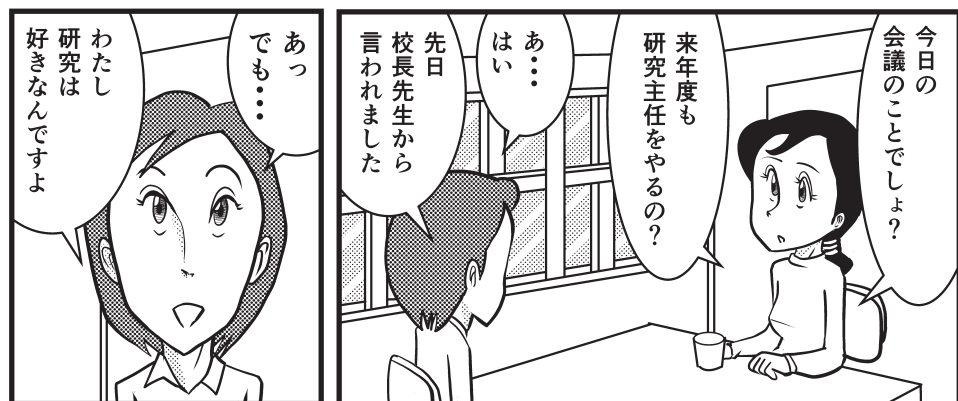
ちょっと  
よろしいでしょうか

研究主任 6年担任

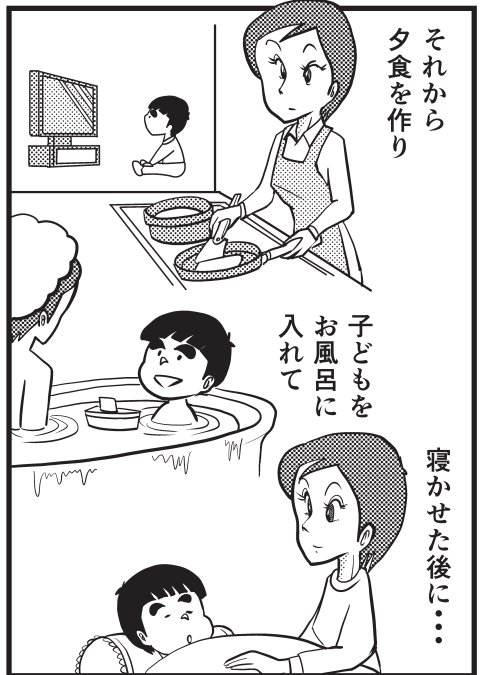
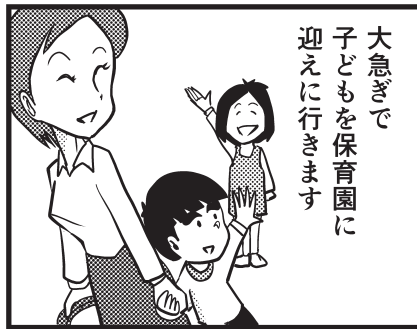
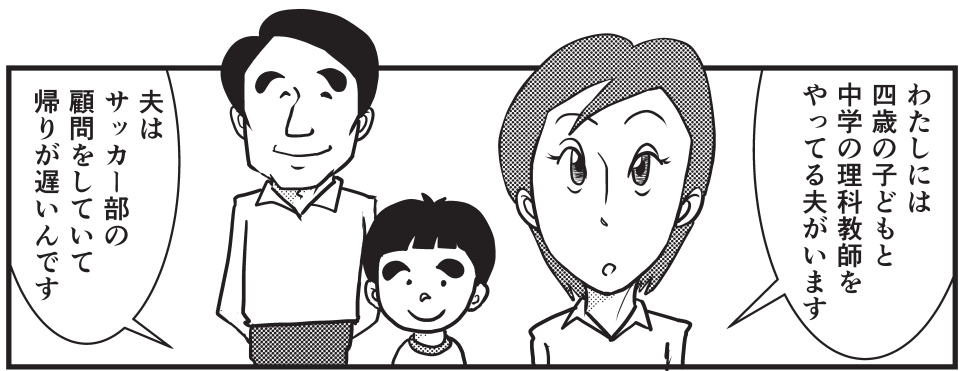
ねっしんまなみ

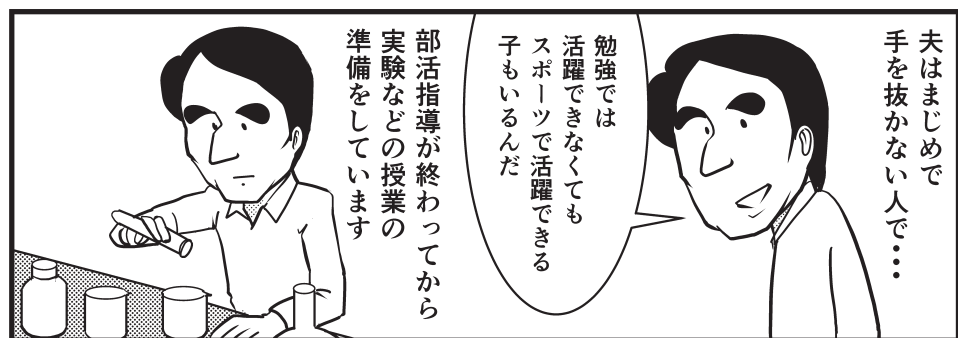
熱心学美(32)





※専門性の高い教員を養成することを目的に展開する専門職大学院。修了すると「教職修士(専門職)」の学位が授与される。





三月十七日(木)

保健室

冬川先生  
いますか？

た……  
大変です！



情報教育主任 4年担任  
あ た ふ た ろ う  
**阿田布太郎(32)**

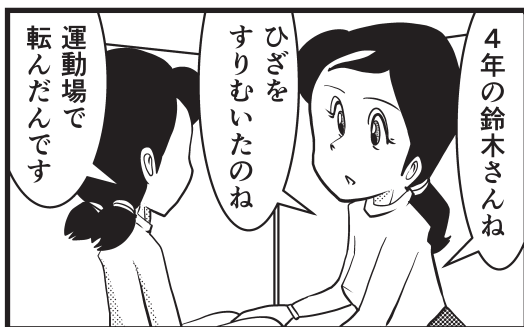


ほ……  
本当に大丈夫ですか？

実は  
骨折だったり  
してませんか？

救急車  
よばなくて  
いいですか？

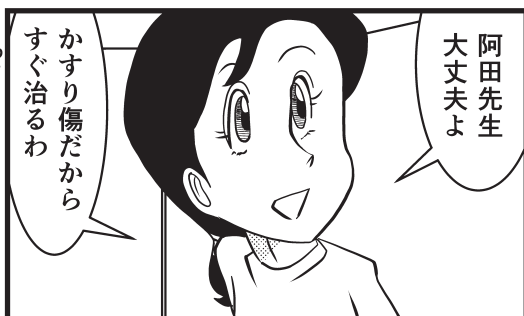
病院へは  
行った方が  
いいですよ？



4年の鈴木さんね

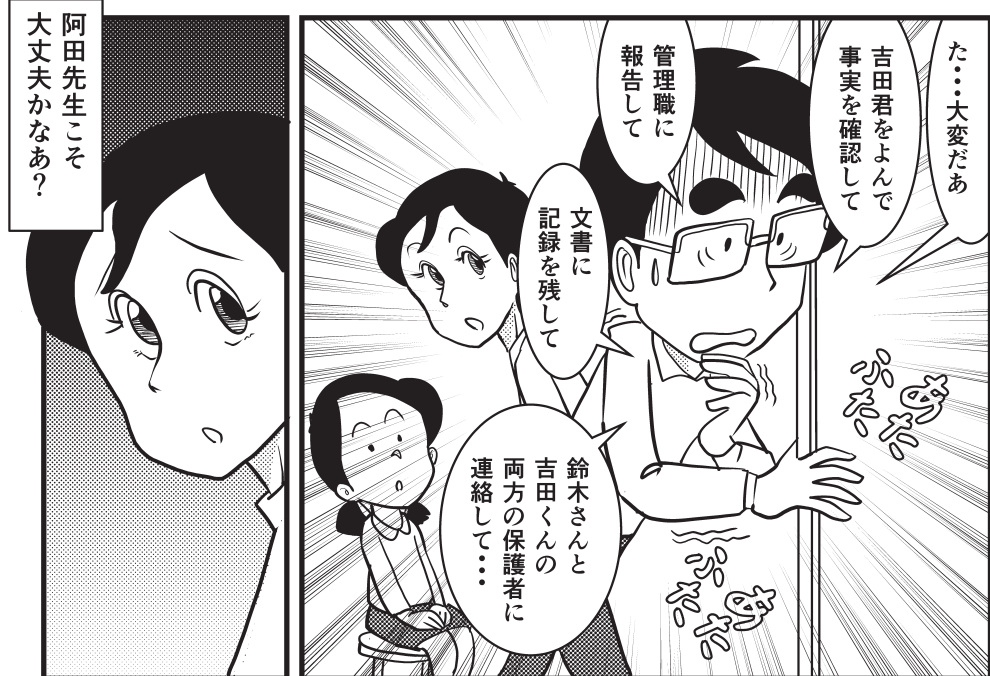
ひざを  
すりむいたのね

運動場で  
転んだんです

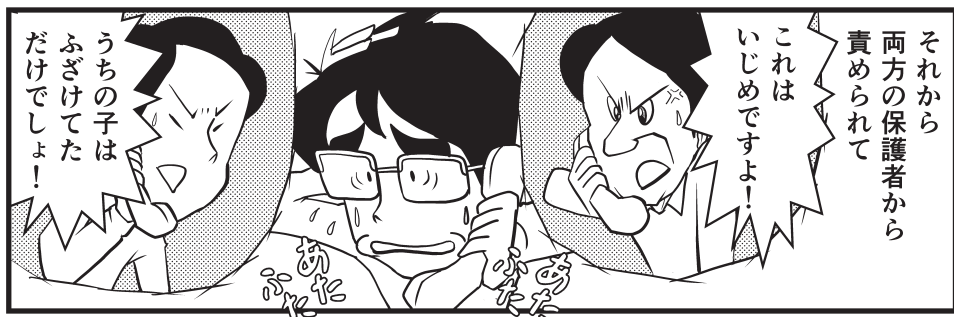


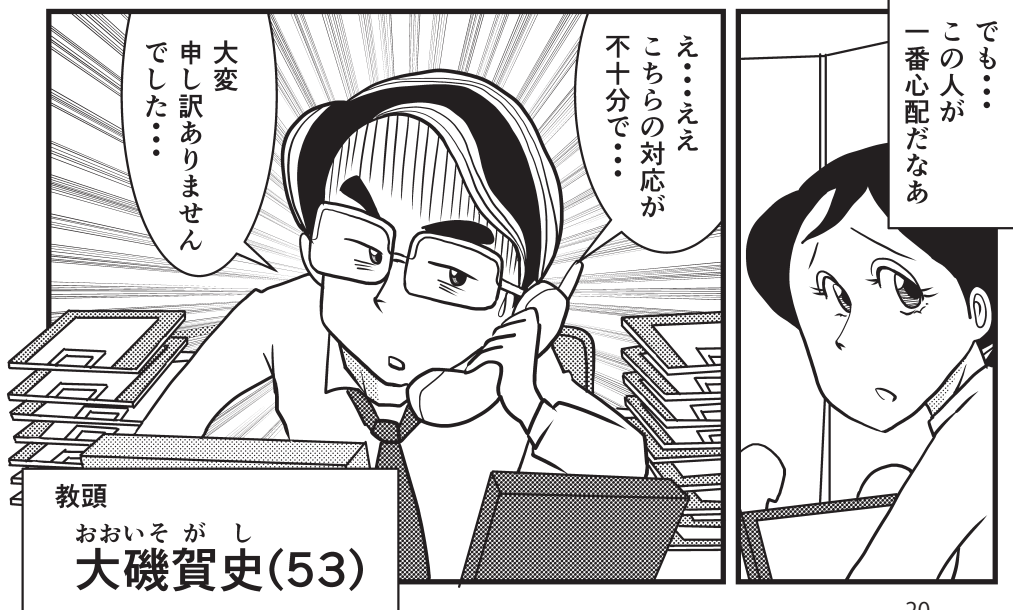
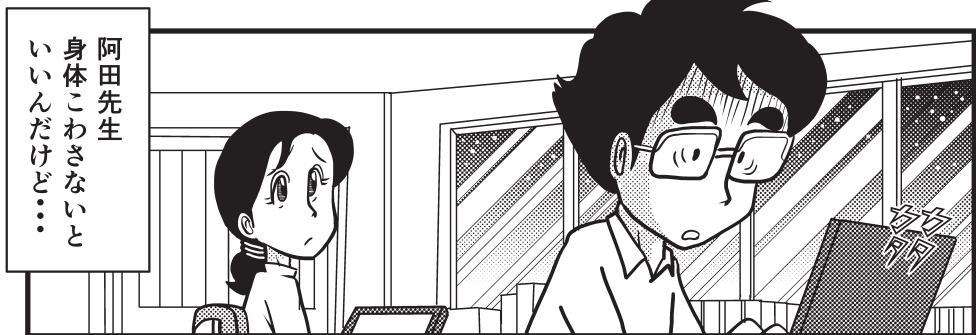
阿田先生  
大丈夫よ

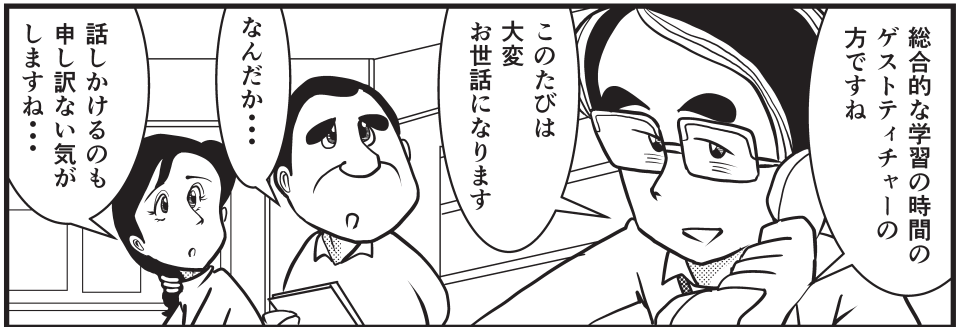
かすり傷だから  
すぐ治るわ















# 校長室

大磯教頭先生

この四月から  
ベテランの  
臨時採用の  
先生が来てくれる  
ことになってね

W 大学から  
推薦があつたので  
優秀な人らしい

だから  
研究副主任を  
やってもらおうと  
思っている

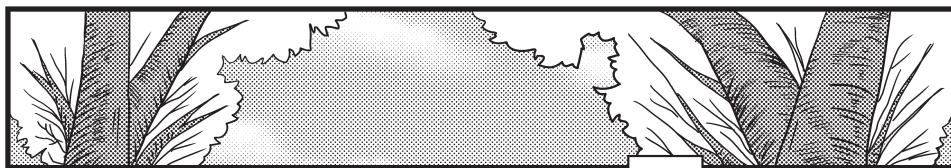
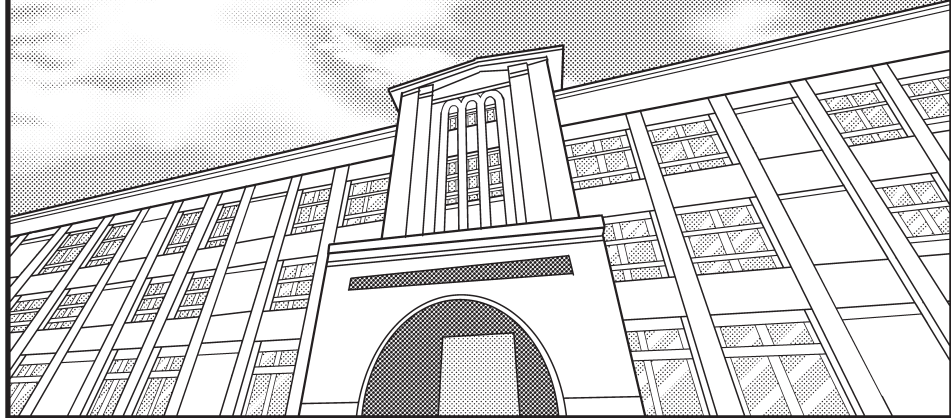
名前は…

吉良良介

君と  
同年だ

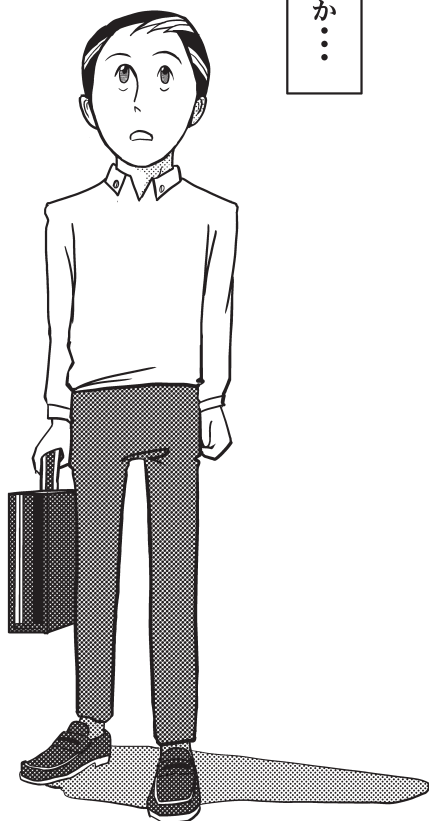
吉良良介

あの  
吉良が…



ここか…

大磯が  
教頭をやっている学校



臨時採用教員

きらりょうすけ  
吉良良介(53)

# 学校の多忙化

経済協力開発機構（OECD）は、平成25年に実施した国際教員指導環境調査（TALIS）の結果を公表しました。それによると、教師の1週間あたりの勤務時間は、参加国平均38・3時間に対して日本は53・9時間となっており、参加国中断トツに長いことが明らかになりました。

多忙化の要因は様々ですが、社会の変化に合わせて教育内容が増え細やかな対応が要求されるようになってきたことは大きいでしょう。たとえば、総合的な学習の時間、情報教育、外国語教育、といった学習内容が増えました。道徳教育や特別支援教育の充実、全国学力調査における学力の向上も求められています。そして、いじめや不登校などの問題に対する学校の対応も問われています。放課後や土日に行われる部活動の指導も大きな負担となっています。

学校の多忙化が進めば、満足な授業の準備はできません。また、教師が自らの能力を開発するための時間も確保できなくなります。さらに、教師を志望する若者が減れば、優秀な人材が教育界に來なくなることも考えられます。そうすると、未来社会を形成していく日本人を育てることさえ難しくなるでしょう。これは、単に学校だけの問題ではなく、国家レベルの問題なのです。

## ★学校における働き方改革

そもそも政府がすすめる「働き方改革」とは、働く人の視点に立ち、働く文化や風土も含めて変えようとするものであり、一人一人がより良い将来の展望を持ち得るようにするためのものです。企業の経営者や行政のトップが勤務時間の短縮や業務改善を推進するといったものではありません。国民自らが、自分も含めて働く人の立場に立ち、今後どんなライフスタイルを目指すのかを主体的に考えなければならぬものなのです。

文部科学省は「学校における働き方改革特別部会」を立ち上げ、平成29年8月に緊急提言をまとめました。それには、「教職員一人一人の問題にとどめることは決してあつてはならず、国や地方公共団体、さらには家庭、地域等を含めた全ての関係者がそれぞれの課題意識に基づいて、学校種による勤務態様の違いや毎日児童生徒と向き合う教員という仕事の特性も考慮しつつ、その解決に向けて、今回の働き方改革の目指す理念を共有しながら、取組をただちに実行しなければならない。」とあります。

教育の主体は学校だけではなく、家庭や地域住民も含むものです。しかし、現状では、教育に関する問題のほとんどを学校教育が請け負っているように感じます。たとえば、ネットトラブルなどの学校外での生活の問題や、放課後のスポーツ活動などは、家庭教育や社会教育でも請け負おうことができるはずです。つまり、学校における働き方改革とは、学校だけの改革ではなく、国民一人一人が、教育の在り方を考えていく改革だと言えるのではないのでしょうか。

①

# LIFE SHIFT

## 100年時代の人生戦略

リンダ・グラットン、アンドリュー・スコット

(池村千秋訳、東洋経済新聞社)



原題は『The 100-Year Life』。日本では『LIFE SHIFT』という題でベストセラーになった本です。主な先進国では平均寿命が長くなり、誰もが100年を生きる時代となりつつあります。この本は、そうした時代をどう生き抜くか、という新しい人生設計へのヒントを与えてくれます。

リンダ・グラットンは、従来の「教育」「仕事」「引退」の3つのステージを生きた時代は終わりつつあるといい、新しいステージが出現すると主張します。そして、長い人生を生き抜くために、労働時間を節約しながら自己のリ・クリエーション(再創造)のために時間を使うことを提案します。

仕事に埋没して自分を見失いがちになってしまう日本の教師にとっては、自らの生き方や働き方を考えるためのきっかけとなるでしょう。